

第2セッション：六次産業化を駆動する農企業ネットワークーその展開と可能性ー
コーディネータ・座長：小田滋晃（京都大学）

（発表）

長命洋佑（京都大学）「六次産業化の進展と次世代を担う農企業ネットワーク」

室屋有宏（農林中金総合研究所）「地域全体の活性化につながる『地域の六次化』の必要性」

川崎訓昭（京都大学）「農企業ネットワークをめぐるガバナンスとコンフリクト」

（パネルディスカッション：六次化は地域に何をもたらすか?）

座長：小田滋晃、長命洋佑（京都大学）

パネラー：

- ・川崎訓昭（京都大学）
- ・室屋有宏（農林中金総合研究所）
- ・山田敏之（こと京都株式会社）
- ・八木隆博（株式会社 博農）
- ・小根澤貴宏（農林水産省近畿農政局）

要旨：

近年、わが国の農業を巡る問題として、農業生産者の著しい高齢化傾向、食のグローバル化の進展と国内農産物価格の長期的な低迷化の傾向、そして、異常気象や鳥獣害の頻発による生産意欲の低減など、わが国農業に対する将来への不安がますます増大してきている。このような状況下で、わが国農業を実質的かつ健全に担う農業経営体を表す総称概念としての「農企業」が注目されつつある。

そこで本セッションでは、この「農企業」に総称される多様な農業経営体に焦点を当て、近年、国の施策として強力に推進されてきている六次産業化の担い手としての多様な農企業経営とそのネットワークについて、その展開と可能性を検討する。特に、パネルディスカッションでは、地域における多様な農企業経営体による六次産業化の進展が農地に代表される地域の農業生産諸資源を健全な状態で次世代にバトンリレーするための諸条件に整合的となるのかに焦点を当てつつ、「次世代につなげる農業」のあり様について討議する予定である。